

笠原のまちづくりによる 地域と共に成長する新しい学びの場

新しい笠原義務教育学校は、子どもたちが9年間一緒に学び合い育ち合う場所であり、地域の人々と一緒に学ぶ大きないえのような場所です。
地域と共にある学校づくりは笠原地域の大切な「まちづくり」であると考え、子どもたちと地域と一緒に成長できる新しい学びの場を提案します。

シンプルでコンパクトな配置計画

現在校舎の建っている安心な地盤面に、新校舎・体育館・武道場・プールをコンパクトにまとめ、小・中・地域みんなで利用しやすい一体施設をつくります。
各階の交流スペースである「もり」を中心にクラスルームや特別教室を配置した、明快的ゾーニングです。

コンパクトで使いやすいみんなの学校

地域のみんなが利用する、体育館、武道場、音楽室、多目的室などを、北側の地域開放エリアとし、セキュリティラインを設けて地域開放をします。



様々な活動が展開できる「交流のもり」

昇降口から入るとモザイク階段に面した「交流のもり」があります。階段を観覧席にして英語やダンス発表の場として使ったり、その様子をみんなのスタジオで撮影して動画配信をしたり、吹抜を活用して立体作品を展示したり、地域の方との交流の場としたり、活動の幅は無限大です。

